

報 告 書

開催日時	平成 26 年 5 月 14 日（水）午後 7 時 00 分～ 8 時 30 分	
開催場所	横田基幹集落センター	
出席議員	挨拶 及川 修一班長（教育民生常任委員会委員長）	
	司会進行	大坪 涼子
	報告者	及川 修一
	記録者	鶴浦 昌也
	議員	大坂 俊 松田 信之、清水 幸男
参加人数	市民 26 人、市職員 2 人、東海新報記者 1 人	
主な要望 ・提言等	<p>1. 各地で河川の災害復旧工事が行われているが、議員は完成の状況やその後の管理の在り方などを見回っているか。工事の設計などに疑問を感じることもあり、予算の無駄遣いと思うことがある。議員が各地を見回って当局に伝えてほしい。</p> <p>2. 震災検証問題について、議会は 3 月末で一旦やめるという話だった。県紙では「議会が議論を終結し、今後は市が修正作業を行って夏前に修正案を提示する方針だが、震災の教訓を市民と共有するためにも市民に開かれた場での論議を求めたい」との記事が掲載された。報告書案は 380 ページにも及び、市民は目が通せないし、まどがしぼれていない。市の防災計画に生かされ、市民の生命と財産が守られるのか疑問。</p> <p>3. 横田保育園は築 40 数年経ち老朽化している。梁（はり）が曲がっていたり、雨漏りしたり子どもたちが危険な状況で保育されている。よりよい保育環境の整備に努めてほしい。</p> <p>4. 今後、大きな公共施設には木質バイオマスを生かした暖房施設の整備をお願いしたい。B & G のプールなども含め、エネルギーの地産地消の考えで木質バイオマスの普及に努めてほしい。</p> <p>5. 震災後、高台移転の事業が進められているが、なかなか横田に住宅を建てようとする人が少ないように思う。横田は安全な地域であり、浸水域でない地域として宅地の整備や公共施設の建設を検討してほしい。</p> <p>6. 高台移転の事業に関し、あらかじめ歴史や文化的に重要と思われる場所に計画されるのは疑問。子どもたちにはもっと自分たちの地域の文化遺産を学ぶ機会を設けてほしい。</p> <p>7. 公共施設は安全な場所に集約化することが大切。分散しないほうがい</p>	

い。新しい市役所の位置について大船渡市のように津波の被害に遭わないような場所をお願いしたい。有事の際にしっかりと防災機能が発揮できるよう、安全な場所にとと思う。

8. 住田町の津付ダムについては、陸前高田市も住田町に協力すべき。自分たちは「かさ上げしたから大丈夫」などと言ってはいけない。さらに、洪水対策として川底の砂利をとるべきではないか。川底の石を復興事業にも活用できるのではないか。
9. かさ上げした場合、津波が川をのぼる。今回の震災津波では竹駒まで川をのぼった。同じような津波が来ると今度はさらに奥の横田まで押し寄せるのではないか心配。
10. 水道を新たに整備する際の補助金制度はないのか。住民の手出しが少なくなるような手立てをお願いしたい。上水が整備されなければ下水も整備されない。少なくとも上水道が整備されない場所に被災者が住居を建てようとはしないのではないか。
11. 昔に比べ、川的地盤が下がっていたが、津波のガレキが堆積して戻った。そうすると堤防を越水して有事の際に浸水する地域が多くになるのでないか。
12. 有害駆除が行われているが、駆除したシカを道路に置きっぱなしにしているケースが見られる。ハンターのマナーが悪くなった。
13. 市民憲章があるが、今後のまちづくりにぜひ憲章内容を生かしてほしい。
14. 気仙川の河口に水門を設置することには反対。その反対に河口を広げてほしい。そうすることによって砂浜が形成されるのではないか。
15. 高田松原地区震災復興祈念公園のあり方について、市民から意見募集が行われたが各議員の問題意識や考え方はどうか。祈念公園構想会議には市長と市立博物館長が委員となっているが、市内からわずか2人しか入っていない。ほかの委員は松原に愛着があるのか疑問。委員構成に問題があるのではないか。住民に意見を聞く場が設けられ、いい意見が出されたにもかかわらずそれだけで済んでいる。住民意見が反映されているか疑問。構想の中で松原に山をつくるとある。12.5メートルの堤防の上に10メートルもの山を盛るという計画なのか。意見募集するのにイメージ図や平面図もなく、想像しにくい。さらに、公園内に様々な箱モノが整備される計画にあるが、本当に必要なのか。各議員も復興に関する各種計画についての具体的な内容について関心を持ち、監視をしてほしい。
16. 震災時、松原では液状化現象が見られたと聞く。その上に堤防を整備しても大丈夫か。

所 感	<p>【及川 修一】 コミセン関係者の周知ができていたようで、参加者が多かった。上下水道整備など、地域性が感じられる質問が多かったが、特に、老朽化の著しい横田保育園新築の問題などは急務であると感じた。町外の方の参加もあり、防潮堤、祈念公園などの考え方に対する質問も寄せられた。</p> <p>【大坪 涼子】 今回はコミセン単位とのことで各区長さんの周知もあり多くの参加があった。若い人の参加もあり、横田保育園の老朽化や再生エネルギーで地元木材を利用した木質バイオマスのあり方など、陸前高田市の新しいまちづくりに関する発言も強く印象に残った。</p> <p>【鶴浦 昌也】 土地柄もあって治水対策に関する意見や提言が多かった。また、未給水地域への上水道整備が被災者の宅地開発などにも及ぶ切実な問題だと強く感じた。</p> <p>【大坂 俊】 高田松原復興祈念公園構想、震災検証など全市的なテーマも出たが、議会としての考え方のみならず、議員個人の意見を求められるケースがあった。勿論、議会報告会の趣旨からすれば対応は難しいとは思いますが、議会での議論のなかでの少数意見紹介など、なんらかの工夫が必要と感じた。</p> <p>【松田 信之】 地域以外の方も見られるなど予想以上の参加者であったこと。地域とは直接結びつかない意見や質問なども多く、中々難しい懇談会であった。</p> <p>【清水 幸男】 懇談では、震災検証から保育園の整備、気仙川防潮堤のかさ上げ、メモリアル公園の基本構想、安全な横田のまちづくり等幅広い意見を頂きました。</p> <p>被災されない横田地区の「まちづくり」がテーマでしたが、中でも気仙川改修と津波遡上の課題では、内陸部までの津波防災マニュアル等明記することの必要性を感じた。</p>
-----	--

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会教民班

班 長 及 川 修 一

⑩